

事務事業名		文化財整備普及事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	30 地域文化の伝承と創造					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 文化財の保存と活用					01	10	05	02	15
根拠法令	文化財保護法、県・市文化財保護条例										
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 不詳 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	文化財係	電話	27-3111							
			内線	273							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ)					
・文化財の整備と普及を行う事業。主な事業内容は次のとおりである。 大船渡市史跡等保存整備検討委員会の開催(文化財に関する専門家6名を委嘱して、年1回、史跡の保存と整備について意見をもらう)、史跡等保存整備に係る諸計画の策定(委員会の意見をもとに、史跡の保存管理計画、保存整備の基本構想などを策定する)、史跡等公有化事業(史跡の土地の買い上げを行う)、文化財解説パンフレットの編集(市民向けパンフレットの作成と配布)、文化財説明看板の設置・更新(老朽化した説明看板や標柱などの更新等を行う)、文化財めぐり(市民を募り、市内の文化財を案内する) ・事業費は、検討委員会の報償費・旅費、看板修繕費等に支出される。						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
						事業費計(A)	0				
						正規職員従事人数					
						延べ業務時間					
						人件費計(B)	0				
						トータルコスト(A)+(B)	0				

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 看板等設置・修繕箇所数	箇所
史跡等保存整備に係る諸計画の策定、国指定3史跡の解説普及用パンフレットの作成、文化財標柱(天然記念物樹木)の標柱更新、文化財めぐり		イ 史跡等保存整備検討委員会開催回数	回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
史跡等保存整備に係る諸計画の検討、国指定3史跡の解説普及用パンフレットの配布、文化財標柱(天然記念物樹木)の標柱更新、文化財めぐり			
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
指定文化財、市民		名称	単位
		カ 指定文化財数	件
		キ	
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
指定文化財を普及・活用する。		名称	単位
		サ 文化財めぐり参加者数(中止の場合は応募者数)	人
		シ	
		ス	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
・保存・活用される。			
・次世代に継承される。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)	22年度(目標)
投入量	事業内訳	単位						
		千円						
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	409	563	370	1,233	1,264	1,300
	事業費計(A)	千円	409	563	370	1,233	1,264	1,300
	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4
	延べ業務時間	時間	525	1,200	1,500	1,500	1,500	1,500
	人件費計(B)	千円	2,100	4,800	6,000	6,000	6,000	6,000
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,509	5,363	6,370	7,233	7,264	7,300
活動指標	ア	箇所	2	4	2	7	4	4
	イ	回	1	1	0	1	2	2
	ウ							
対象指標	カ	件	86	86	86	86	86	86
	キ							
	ク							
成果指標	サ	人	9	13	7	13	20	20
	シ							
	ス							

事務事業ID	0850	事務事業名	文化財整備普及事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和25年文化財保護法、昭和32年県文化財保護条例、昭和35年市文化財保護条例の施行後、文化財の普及・活用を図るために始められた。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

文化財の保護に係る認識が、一般(行政、住民、建設業者など)に広く普及、浸透してきており、関心が徐々に高まっている。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・国、県、市民などからは、国指定史跡の活用を図るよう求められている。

・一部の指定文化財において、文化財説明看板及び標柱の老朽化が所有者等から指摘されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 文化財の周知・普及及び活用が図られることは、地域文化財の伝承と創造のもととなり、豊かな心を育む人づくりの推進に結びつく。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 文化財保護法、県・市文化財保護条例で、公共の関与が示されているため。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 現段階で、とくに重要なものを指定文化財としていことから、対象は適切である。ただし、今後の調査研究により、新たに文化財指定されることがある。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 文化財を普及するための、市民への情報提供が十分でない。今後は解説パンフレット等を作成、活用しながら普及を図っていく。文化財めぐり参加者数は、かつて30名以上の参加があったが、近年は10名前後に止まっている。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 今後の史跡活用が図れなくなる。 指定文化財の普及・活用が図れなくなる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 指定文化財を観光資源として、観光パンフレット等に掲載し、周知と普及を図る。 ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない [理由] 文化財の整備・普及においては、学術的な調査研究の成果を基礎とするため。 ☐ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 今後、史跡等の保存整備を進めていくうえで、相応の費用がかかっていく。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 一般事務職員2名(専任1名、兼任1名)、専門的知識・技術を有する職員1名(兼任)、嘱託職員1名(埋蔵文化財調査員)が他の文化財事業と並行して事務事業を行っており、これ以上の削減は事業の停滞を招く。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 文化財めぐりでは、拝観料等が必要な場合は、参加者からその実費を負担してもらっている。

事務事業ID	0850	事務事業名	文化財整備普及事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・国指定史跡保存管理計画書の策定を行った。また、保存整備活用基本構想について、史跡等保存整備検討委員会において答申を受けた。 ・国指定3史跡普及パンフレットを収納・配布するためのボックスを作成設置し、パンフレットを随時補充した。 ・文化財めぐりについては、対象を地域で特定して実施し、参加者が前回より増加した。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 文化財めぐり参加者数は、近年は10名前後に止まっているため、市広報に開催記事を掲載するなどさらに広報活動に努めて、参加者の増大を図る。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・文化財を普及するための、市民への情報提供が十分でないことから、文化財パンフレット等を作成し、市民に広く知ってもらい、文化財の周知と普及を図る。 ・今後の史跡活用や、指定文化財の普及・活用を図るため、この事業を継続する必要がある。 ・今後、史跡等の保存整備を進めていくうえで、相応の費用を年次的に調整していく必要がある。																							

		(職 名)	原則として施策の主管課長	(氏 名)
4 事務事業の2次評価結果	2次評価者		生涯学習課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 概ね適切な事務事業執行がなされているが、さらに文化財普及のためのPRが必要である。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 継続して事務事業を実施していくが、文化財の普及、PRにより努める。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
--